

当院リハビリテーション部実習でCPX検査（CPET）、BIA検査を受けられた方へ  
医学研究「体組成におけるPhase Angleと運動耐容能の関連性の検討（I2024-  
108）」へのご協力をお願い

この度、東京科学大学リハビリテーション部では、体組成計で得られた位相角（Phase Angle）とCPETで得られた酸素摂取量に関する研究を実施いたします。本研究は、研究責任者高階祐輔（特任助教）のもと、東京科学大学医学系倫理審査委員会の承認及び学長の許可を得て行われるものです。

#### 【研究の意義・目的】

心肺運動負荷試験（CPX、CPET）は、運動中の呼吸ガス交換をリアルタイムで評価し、心肺機能や運動耐容能を包括的に測定する検査です。心不全患者における重症度判定や治療効果の評価、リハビリテーションの計画に広く用いられるほか、アスリートや健常者の運動耐容能評価にも利用されます。しかし、CPETは高度な設備と専門知識が必要で、患者の負担が大きいという課題があります。

Phase Angleは、生体インピーダンス法（BIA）を用いて簡便に測定でき、細胞膜の健康度や体液バランスを反映する指標です。これまでの研究で、Phase Angleは栄養状態、サルコペニア、虚弱、さらには死亡リスクとも関連があることが示され、心不全患者においても病勢や予後を反映する指標として有用性が示唆されています。

本研究では、CPETで得られる酸素摂取量とPhase Angleとの関係を明らかにし、Phase AngleがCPETを補完する初期スクリーニング手法として活用できるかを検討します。

#### 【研究方法とデータの取り扱い】

この研究では、過去に東京医科歯科大学医学部附属病院の実習で測定したCPETと体組成計のデータを使用いたします。対象となるのは、2023年度に東京医科

歯科大学5年生であり、リハビリテーション部の実習で検査を施行した方です。皆様の情報は、氏名など特定の個人を識別できる情報を加工（匿名化）され、研究以外の目的では使用されません。

本研究への参加は任意であり、参加を希望されない場合は、下記の連絡先までお申し出ください。参加を希望されない旨のお申し出があった方のデータは研究に使用いたしません。お申し出の有無により患者様への診療に不利益が生じることは一切ありません。

本研究で得られた成果は、学会発表や論文として公表される予定ですが、個人が特定される情報は含まれません。また、研究データは厳重に管理され、研究終了後 10 年間保存した後に、復元不可能な状態で廃棄されます。

ご質問やご相談は、以下の連絡先までお願いいたします。

研究に関するお問い合わせ及び研究不参加のお申し出：

東京科学大学医学部附属病院リハビリテーション科

高階 祐輔 （内線86530）

皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

苦情窓口：東京科学大学 研究推進部研究基盤推進課 生命倫理グループ  
03-5803-4547（対応可能時間帯：平日9:00～17:00）